

空土ファーム生きもの調査 10月報告書

1. 調査の概要

1) 調査の目的

山梨県北杜市須玉町増富地域にある空土ファームの耕作放棄地を再耕作することにより、生物多様性がどのように変化するか、周辺環境も含め調査を実施する。また、その調査結果をもとに、一般向け自然観察会の実施や、ハンドブック作成も視野に入れる。

2) 調査方法

①調査レベル：主任研究員クラスによる現地調査

②調査地：山梨県北杜市須玉町増富地区「空土ファーム」とその周辺緑地（図-1）

今回の調査では、4カ所の調査地点を設定し、確認された生きものはどの調査地点で確認されたかを記録した。

③調査対象：鳥類、チョウ・トンボ・バッタ類等の大型昆虫類を中心に、姿・声・行動等を確認すると共に写真撮影を行う。両生類、は虫類、ほ乳類等は適宜調査する。

④調査日程：2019年10月28日 10:00～16:00



図-1 調査地全景および調査地点

2. 自動撮影装置の設置

C地点に自動撮影装置を設置し、夜間に活動する哺乳類などの記録を行った(図一2)。なお、今回の調査では哺乳類である、ニホンジカ、ニホンリス、ホンドギツネ、ホンドタヌキを記録することが出来た(図一3)。



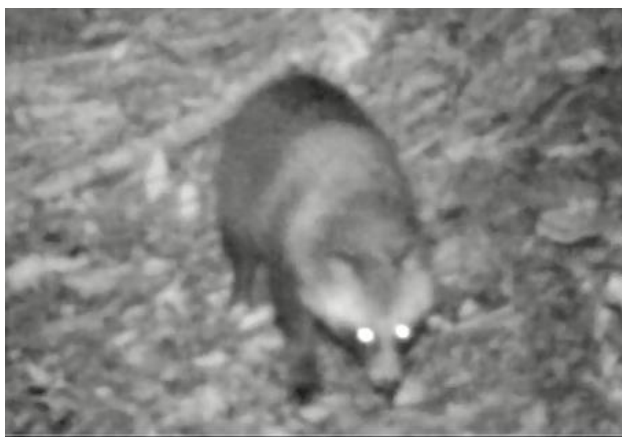
図一2. 設置された自動撮影装置の様子



ホンドギツネ



ニホンジカ



ホンドタヌキ

図一3. 自動撮影装置で記録された生きもの

3. 空土ファームで見られた生きものたち

1) 空土ファーム 生きものピックアップ

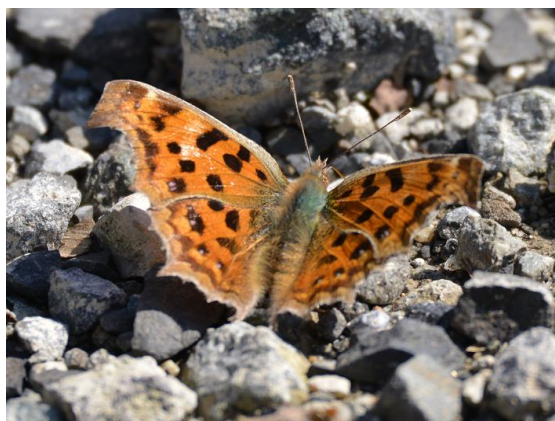
イグサ (B地点):

今回の調査では、B地点の休耕田でイグサが確認されました。イグサは畳の原料として使われている、ある意味身近な植物ですが、水田や休耕田などの湿地環境が減少してきている都市部では、生えている姿を見かけるのは難しいかもしれません。空土ファームでは、休耕田のいたるところでイグサが繁茂していました。



イグサ (B地点)

2) 各調査地で見られた生きものたち



キタテハ (B地点)

日当たりの良い場所で日光浴をしていました。
成虫の姿のまま枯れ葉などの陰で越冬します。



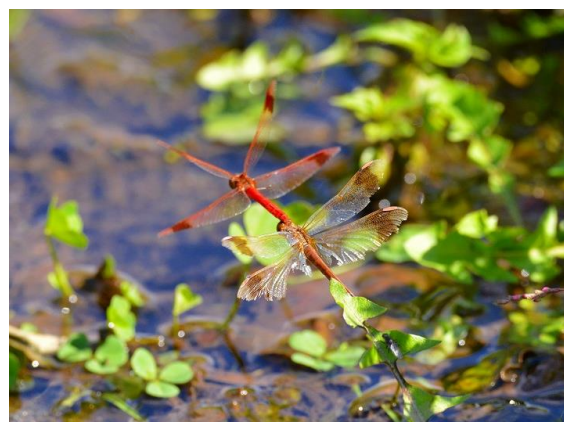
オツネトンボ (B地点)

成虫の姿のまま越冬をする、トンボの中では珍しい生態を持ちます。



ヒメアカネ (ビオトープ)

水田周りや休耕田のような湿地環境でよく見られますが、成熟するまでは林内で生活します。



ミヤマアカネ (B地点)

山間部の湿地環境で多く見られる、トンボの仲間です。水田脇の水たまりに産卵をしていました。



ツマジロカメムシ (B地点)

キイチゴやミズナラなどの多くの植物につき、針状の口吻で植物や果実の汁を吸います。



ヘラオモダカ (ビオトープ)

葉がヘラのような形をしていることから、この名がついたと言われています。

山梨県 RL：準絶滅危惧種

3) 空土★生きものコラム ～見晴らしの良い場所によく止まる訳は？～

10月の調査では、翼にある白い紋が特徴的なジョウビタキという鳥が確認されました。今回のコラムでは、東京都内の公園でも見られるジョウビタキについて紹介していきます。

通常、野鳥の多くは草むらや木の枝のかげに隠れることが多く、なかなかじっくりと姿を見ることが難しいです。しかしジョウビタキは、木の枝の先端や開けた場所の手すりなどによく止まるので、とても観察しやすいです。しかしなぜジョウビタキは見晴らしの良い場所にとまるのでしょうか？その理由としては、ジョウビタキはオスもメスもなわばりをもつので、そのなわばりを他の個体から守るために見晴らしの良い場所に止まっているのです。他の個体がなわばりに入ってくると、果敢に追い払おうとしますが、時には車のミラーなどに移った自分を敵と勘違いして攻撃しようとすることもあるそうです。一方で、手すりに止まりながら尾羽をフリフリさせて、あたりを見張る可愛らしい様子も観察することができます。

越冬のために北の国から日本へ訪れる冬鳥の仲間なので、春になると子育てのために中国などの繁殖地へと移動します。期間限定でしか観察できないジョウビタキを、皆さんも身近な公園で探してみてください。



ジョウビタキ (別の場所で撮影)

4. 調査結果

表. 調査地内で見られた生物種(草本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	イヌタデ	Fr			
A	ウナギツカミ	Fr			
A	ハキダメギク	○			
A	メヒシバ	Fr			
A	イヌナズナ	○、Fr			
B	セイヨウタンポポ	○			
B	ハキダメギク	○			
B	メヒシバ	Fr			
B	ムラサキツメクサ	○			
B	シロツメクサ	○			
B	イグサ	Fr			
B	アメリカセンダングサ	○			
B	アワコガネギク	○			
B	キンエノコロ	Fr			
B	オオバコ	Fr			
B	ヒメジョオン	○			
C	ツチアケビ	Fr		絶滅危惧 I B類(EN)	
D	ススキ	Fr			
D	キンエノコロ	Fr			
D	コセンダングサ	Fr			
D	アイノコセンダングサ	Fr			
D	ハキダメギク	○			
D	ムラサキツメクサ	○			
D	キクsp				
D	メヒシバ	Fr			
D	ホトケノザ	○			
D	ノコンギク	○			
D	セイヨウタンポポ	○			
D	セイトカアワダチソウ	○			
D	ヒレアザミ	○			
D	ウシハコベ	○			
D	メナモミ	Fr			
D	アメリカセンダングサ	Fr			
D	ノイバラ	Fr			
D	ツリフネソウ	○、Fr			
ビオトープ	ハキダメギク	○			
ビオトープ	ヘラオモダカ	Fr		準絶滅危惧(NT)	
ビオトープ	ミゾソバ	Fr			
ビオトープ	フトイ属の一種	Fr			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(木本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	カラマツ	Fr			
C	ミズナラ	Fr			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	コバネイナゴ				
A	モンキチョウ				
B	コバネイナゴ				
B	モンキチョウ				
B	ミヤマアカネ				
B	ヒメアカネ				
B	クロヒラタアブ				
B	オオチャバネセセリ			準絶滅危惧(NT)	
B	セイヨウミツバチ				
B	オオハナアブ				
B	ナナホシテントウ				
B	オツネトンボ				
B	メスアカフキバッタ				
B	コアオハナムグリ				
B	ヤマトシジミ				
B	オンブバッタ				
B	ツマジロカメムシ				
B	ヨモギハムシ				
B	ミヤマアカネ				
B	キタテハ				
C	カマドウマ				
C	キタテハ				
D	ウラナミシジミ				
D	モンキチョウ				
D	オツネトンボ				
D	ミヤマアカネ				
D	ベニシジミ				
D	キタキチョウ				
D	ヒメアカタテハ				
D	ホソヒラタアブ				
D	クロヒラタアブ				
D	ウラナミシジミ				
D	ヒメアカネ				
D	ハネナガヒシバッタ				
D	アキアカネ				
D	キイロスズメ				
D	オオカマキリ				
ビオトープ	マツモムシ				
ビオトープ	ヒメゲンゴロウ				
ビオトープ	ヒメアカネ				
ビオトープ	クロスジギンヤンマ		ヤゴ		
ビオトープ	ガムシ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	準絶滅危惧(NT)

表. 調査地内で見られた生物種(両生類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
ビオトープ	ヤマアカガエル				

表. 調査地内で見られた生物種(鳥類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	ジョウビタキ	c			
B	シジュウカラ	c			
C	カケス	c			
C	シジュウカラ	c			
C	ヤマガラ	c			
C	コゲラ	c			
D	ヒヨドリ	c			
D	スズメ	c			
D	ハシブトガラス	v			
D	ホオジロ	v			
D	ジョウビタキ	v			
D	キセキレイ	v			
D	セグロセキレイ	c			
D	コゲラ	c			
D	カケス	v			
エリア外	モズ	c			

v:目視 c:地鳴き s:さえずり fl:飛翔 fd:採餌

表. 調査地内で見られた生物種(哺乳類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	ハクビシン		自動撮影装置		
C	ホンドギツネ		自動撮影装置		
C	ホンドタヌキ		自動撮影装置		
C	ニホンジカ		自動撮影装置		
C	ニホンリス		自動撮影装置		